

## WA 短信



### わの夜店も繁盛

「さあ、綿菓子買ってや。安いで、うまいで」。  
一森店長の呼び込み、増金師匠の鮮やかな風船細工に目をみはる子供たち。村の夏祭り(7月31日)には、わも出店し、アイスクャンデー・チューペット・綿菓子を売りました(写真)。動物風船とセットにした綿菓子が特に人気で、用意した120本は品切れ。生環9期の有志が持ち込んだトマト・じゃがいも・玉ねぎは、1カゴ100円という安さもあって、150カゴはまたたく間に完売でした。「わの店としては例年より、よく売れましたよ」。店長はにこにこ顔でした。わんぱくゾーンに協力してくれたサークルは、昔遊び・点字・ペタンクなど。本部と合わせ70人がスタッフとして参加しました。現役のサークルは国際友の会がヨーヨー釣りの店を出しました。



## 第2回学習支援の集い

22年度の第2回学習支援登録者の集いが7月21日、カレッジ学習室などで開かれ在校生16人を含め約40人が参加しました。特別支援活動に取り組んでいる藤澤淑子さん(北区・国10)と橋本利雄さん(垂水区・生12)が体験発表。ハンデのある子供たちと、どう接しているか、といったことを中心に日ごろの活動ぶりを詳細に報告しました。その後、3班に分かれて各自の現況報告やフリートーキングが行われました。10月26日には第3回の集いが開かれます。

### ジュニア記者が未来館取材

「神戸新聞ジュニア記者」が8月2日、環境未来館(西区)を訪れ、資源リサイクルセンターやピオトープを取材しました。一行は鈴蘭台中1年の立花藍子さんと付き添い2人。センター4Fでは、大量の缶・

## 私のボランティア日記

福祉9期 室田 千江子

平成17年、卒業テーマとして取り組んだ「子育て支援」は「わらべとともに」の名称で活動を開始しました。主に紙芝居、むかし遊びが活動の中心です。活動を開始してから訪問回数は1か月平均5~6回で、既に300回を越えました。初めの頃の紙芝居の演目は主に「いなむらの火」でした。震災10年を迎えていた神戸のテーマとして是非取り上げたいというグループの熱意からです。

訪問する施設が、児童館・小学校・保育園・老人施設・地域老人会などと範囲が広がると共に、取り上げるテーマや内容も変化してきました。ある意味向上してきたかと自負したり、いや、もっともっと磨かなければと思ったりしています。

仲間は13名で毎月第一金曜日に定例会を開きその月の活動予定をたてています。現在は呼称も「わらべ」となり仲間も若返りました。嬉しいことに支援グループができました。「オカリナ」と「軽音楽」です。お陰で活動も一層楽しくなりました。これからも時間の許す限り、体の許す限り頑張りたいと思っています。

瓶類から手作業で異物を取り除く工程にびっくりした様子。1Fでは自転車などの再生品に見入っていました。ハスが咲き、アキアカネや糸トンボが舞うピオトープには特に興味をそそられたようでした。約2時間の取材でしたが、未来館やゴミ処理の問題について、充分理解してもらったと思います。未来館側は廳健二らが説明にあたり、市環境局の佐藤麻子主査が立ち会いました。取材の成果は9月30日付け神戸新聞に掲載されました。(未来館・三輪匡清)

### 「ふたばシニア塾」の講師を募集

長田区にある旧二葉小学校を拠点に「地域人材センター」が設けられ、「ふたばシニア塾」などが開設されます。来年2月~3月にはシルバーカレッジの学生・卒業生による講座も予定されています。カレッジで学んだことを地域の皆さんに聞いてもらおうという試みで、この講座の講師を募集中です。個人でも、グループでもかまいません。ぜひ、挑戦してみてください。応募者は登録申請のうえ、神戸市と協議して最終決定します。謝礼は図書カード程度。申請書はカレッジ事務局にあります。問い合わせは事務局中山・松井(743-8100)まで。